



日章学園九州国際高等学校校長便り 水無月

建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す

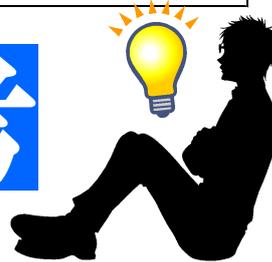
学園スローガン：**為せば成る**

学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。

令和4年(2022年)6月1日(水) 校長 屋田伸仁




ポジティブ思考



最近、「子育て」の本を読んでいるとき、ハッと気づかされることがありました。故事成語「孟母三遷」の解釈の仕方です。一昨年前の9月号の学校便りで、いじめや人間関係で悩んで、解決しそうもないと判断した場合に、思い切って転校して環境を変えるのも一方法だと述べました。そして、環境を変えてうまくいった例として、「孟母三遷」を紹介しました。その内容は、次の通りです。

環境を変えて成功した故事があります。「孟母三遷」、中国の思想家孟子の母親の話です。孟子の母は最初、墓の近くに住んでいましたが、毎日葬式を見ていた孟子は遊びで葬式ごっこをするようになり困りました。それで、母は次に市場の近くに引っ越したところ、今度は商人ごっこで遊んでばかりいるようになりました。そこで母は、学校の近くに引っ越しました。すると、孟子は勉強を一生懸命するようになりました。この故事から、教育には環境が大事であるという「孟母三遷」の教訓が生まれました。



最近読んだ本には、次のように解釈されていました。

母親は、まず墓地や寺社の近くに住んで、先祖に参る人々の姿を孟子に見せ、命や信仰の尊厳を肌で感じさせました。次に市場の近くに引っ越して、商売人の暮らしに触れさせることで社会生活を肌で学ばせます。そして今度は、学校の近くに引っ越して学問に励む人々を身近に見せて、学ぶことの大切さを教えました。これらの転居は、孟子への教育の一環として段階を追って進められたものであり、多様な社会環境を経験させるための計画だったということです。

同じ「孟母三遷」でも、解釈が真逆です。前者は、母親が困り果てて、余儀なく引っ越しをさせられた感じがしますが、後者は、計画的に引っ越しをして、経験豊かに学ばせようという母親の意図が感じられます。後者の母親は、**ポジティブ思考**です。実際に子ども達はいろいろな経験をして、成長していきます。いろいろな経験の中でも、不登校や進路変更の経験は悲観的に捉えられがちです。しかし、孟子の母であれば、マイナスに見える中にもプラスを見つけて、すべてを子どもの糧にして成長を見守っていくのだらうと想像します。



卒業後の進路も充実



計画的に引っ越しを考えていた孟子の母親なら、子どものこれからの進路や将来の仕事も心の中でイメージしながら子育てしていたのではないかと思います。

さて、本校は進路指導も充実しています。本校は普通科ですが、大学進学へ向けての勉強はもちろん、専門学校等への進路指導も親身になって行います。特に、日章学園グループ校の専門学校や短期大学校は充実しています。紹介します。



- ①「宮崎ユニバーサル・カレッジ」(自動車工学科)
- ②「宮崎医療福祉専門学校」(看護学科, 理学療法士養成学科)
- ③「鹿児島レディスカレッジ」(キャリア養成学科, ヘア・アート学科)
- ④「奄美看護福祉専門学校」(こども・かいご福祉学科, 看護学科)
- ⑤「鹿児島ホテル短期大学校」(ホテルビジネス科)



これらの専門学校や短期大学校の進学については、学園併設校としての特典もあります。(入学金の減免制度等)もちろん、これら以外の上級学校への進学や就職についても一人ひとりトコトン面倒を見て、きめ細かな進路指導を行っていきますので、ご安心ください。

補足ですが、日章学園グループは福祉分野にも力を入れています。養護老人ホームや認定こども園、保育園等もあります。更にいろいろ詳しく知りたい方は、ぜひ本校へご連絡、ご相談ください。